

会議録

- 1 あいさつ 澤邊会長より
- 2 自己紹介 今年度初めての対面での開催のため、各委員より自己紹介
- 3 報告事項
(1) 令和2年度事業の進捗状況について 資料1～
事務局より、資料に基づき報告。

事務局：

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、人を集めて何かをすることが難しく、中止せざるを得ない事業が多くあった。ボラポートさかたでは何か別の方法で事業を実施できないか検討したが、良いアイデアが浮かばなかった。委員のみなさまの所属している団体では、どのような工夫をして事業を行ったのか、参考に教えていただきたい。

〈質問・意見等〉

委員：

当団体では、子ども達の自然体験学習は例年の半分くらい減ったが、活動全体に関しては例年より参加者が上回っている。4月後半から11月までで延べ1000人程のボランティアの参加があった。平均年齢は70歳くらいで、元気な高齢者が多い。自然の中だと密になる作業がない。月に2回ペースで活動を行っていたが、5、6月は月4回くらい活動を行った。これは想定外だった。

また、気になったことは、相談件数について。昨年度の相談件数は1256件。1日で割るとだいたい1日5件相談がきている。今年度は、1～3月の件数が抜けているが658件。1～3月で50件ずつ相談があったとしたら、今年度は800件くらいの相談になるだろう。そうすると1日あたり3件の相談がきていることになる。コロナがないとしても、1日5件という相談件数が当たり前なのか、少ないのか、職員の数を含めて考えなければならないのでは。電話での相談が圧倒的に多い。対応するのにそんなに時間がかからないはず。現在の3人という勤務形態も課題に挙げなければいけないと思う。

事務局：

ボラポートさかたの業務は相談業務だけでなく、様々なイベント等にも参加している。現在ボラポートさかたの職員は3人体制だが、相談業務以外の事業やイベントに

時間を取られていることについてご理解いただければと思う。

委員：

一方で、こういったときに質問、相談する場所はここだという認知度を上げていただければと思う。

事務局から、コロナ禍での活動の工夫があれば話が合ったのでお話しいただければと思う。

委員：

当団体でも前期のイベント等は全て中止した。その分を後期に回した分、午前、午後のダブルハッターになってしまった。思いのほか、学びたいと思っている方が多いのだなという印象を受けた。困ったことは、バスで移動し、講師から話を聞く現地研修についてどうするかということ。一つは講師の方が自粛をして、座学の講座に切り替えてもらった。2つ目は人数が多いとバスに乗れないということがあったので、定員を半分にし、同じことを2回行った。3つ目はバスで移動せず、各自が集合場所に集合して研修を行った。このようなことを行い、なんとか実施することができた。今後もバスに大勢を乗せて移動は難しいので、複数回稼働させるか、各自で集合してもらうか。

委員：

イベントを行う予定がリモートへ変更となったので、Youtube等に上げるという形にしたり。毎年公益大の学生と飛島に行っているが、参加者を県内の学生に限定。宿泊はせずに日帰りで行った。バスも定員を半分にして、バスの台数を増やして対応した。中止になった事業もあったが、リモートを活用するなど工夫して対応できた。

委員：

当団体の中では、ボランティア活動は特に…。私も入って2期目だが、どのようなことをしているのかもわからない。ただ、集まりは本当になくなった。私が一番気になっているのが、団体が経済効果を上げる役割を果たせていないこと。夜の集まりではなく、昼に集まって解散するという形で、これでいいのかな？と思いながら参加している。コロナがないときだと、早い時間に会議が終わり、18時くらいから懇親会が始まる。ワクチン接種も始まるが、飲食店への影響を考えると、今後どのようにしていけばいいか。ギリギリでやっているお店もあるし、4月に始めたテイクアウトを頑張ろうという気が全然なくなっている。ボランティアという形ではないが、そういうところを助けていかないと。コロナで思ったのは、こういう言い方は失礼かもしれないが、自分の生活が成り立った上で、次にボランティアがあると思う。個人の家

庭、生活があって余力のある人が、困っている人を助けようというのがボランティアの精神だと思う。商売を投げうってまでボランティアを行うというのはおかしい話だと思うが、そのような中で経済支援が底を尽きるような感じ。違う意味のボランティアがあってもいいような気がする。

委員：

ボランティアや公益活動って何だろうという。酒田市は公益活動の解釈も考えていく必要があるかもしれない。

委員：

自治会関連では、3月以降の理事会、総会は全て中止。高齢者が多いから、怖がる。誰かが怖いからやめようと言うとほとんど全て中止になっている。コミュニティ振興会の役員もしているが、非常事態宣言が緩くなれば、やりたいという声もある。話をする場がないので、話をする場を作ってもらいたいよう。この中で、心配だとなるとどうしても中止となってしまふ。自治会活動はほぼ0。私は酒田市自主防災協議会の役員もやっているが、先日も大きな地震があったが、避難した場合、コロナの心配がある。コロナの心配をどうしたらいいか。みんな避難したら、避難所に千人二人入りますか。そんな時どうするかということ、去年の8月に危機管理課主催で防災訓練を亀ヶ崎小学校体育館で行った。自分がやってみないとわからないということで、酒田市自主防災協議会主催で勤労者福祉センターでも行った。100人限定で集まってもらい、危機管理課、保健師等と様々なことを勉強したが、体験してみないとわからないと思った。みなさんご存じだと思うが、なぜマスクをしなくてはならないのか、なぜこのマスクでなければだめなのか、なぜ手洗いしなければならぬのか、基本がわからない人がいる。正しい知識を持っていない。過去SARSが流行ったときに、私は自衛隊から徹底的に教育を受けた。あれから比べれば、わからない人が多いと思う。みなさんにも勉強してもらえれば。また、私は琢成学区だが、琢成小学校に住民が6千人入りっこない。避難所に避難しない避難というものもある。一昨年山形沖地震のときに津波注意報が出たが、避難しなくてもいい高齢者が避難してくる。我々自治会のアナウンスが悪いと私は言っているが、自治会長も80歳代が多いし、平均年齢が73歳もなるので、どうしたらいいものかと思っている。先日テレビで、福島のある体育館に行政の方が来てパーソナルテントを立てている映像を見たが、できるはずない。行政に任せてもどうしようもない。それをどうするかということ課題にしているが、若い方は自治会長になってくれない。自分の命は人の命よりも大切だから、本音というか建て前というか、それを大事にしていれば。ボランティアも然り。我々が教育されてきたボランティアとは違う。今年度は残念ながら何もできなかった。

委員：

当団体では、ハンドメイド作品を作っているが、今年度はコロナの影響で、マルシェやバザーがなくなってしまい、販売ルートが絶たれてしまっている状態。収入としてはかなり厳しい状態だった。逆に、利用の問合せが多い1年でもあった。雇い渋りなのか、障がいのある方が仕事に就くのが厳しい方が増えたり、あえて今は動かないようにしている動きもあるようだ。

委員：

リモートや密を避ける等、工夫があった。いろんな理由はあるが、活動できない分、活動したいというニーズがあることを大学にいても感じる。それをいい形で繋げていければと思う。

委員：

避難所の話をしていたが、私は特に障がい者の事業所なので、こういうところに行っただけではいけないのではとあってしまうが、絶対にダメだというルールもない。会食はダメだが、1人で外食はいいとか、基準がよくわからない。避難所に障がい者を連れて行っても大丈夫なのかなとか。事業所のボランティアから、そろそろボランティアに行ってもいいかと問合せがあるが、他のところはどうしているのだろうか。基準がないので、周りに流されている部分が多々ある。基準等を明確にとまでは言わないが、判断しやすいようにしてくれればと思う。

委員：

コロナ禍の工夫だけでなく、色々な状況の幅広い話を伺うことができた。私どももそうだが、市役所や社協など関係各所に伝えていただければと思う。工夫についてはまた提供していただければと思う。

(2) 令和3年度事業の進捗状況について 資料2

事務局より、資料に基づき報告。

事務局：

事業計画案はご覧のとおりだが、この計画は、新型コロナウイルスの影響がないときと同様の予定となっている。今後、県内、市内で新型コロナウイルス感染拡大があった場合は、今年度のように関係者と協議をしながら、開催時期をずらす、規模を縮小する等、柔軟に対応していく予定。令和3年度も様々な事業を行う予定。詳しい日程についてはポラポートさかた通信やHPでも随時お知らせするので、推進委員のみならずみなさまからも参加していただくと大変ありがたい。参加してみても感想等を教えて

いただけると、今後の運営の参考となる。

委員：

コロナの状況はわからないので、先ほど各団体からいただいた様々な工夫等も取り入れながら活動を続けていってもらえれば。

(3) 新たな市民協働・資料3

事務局より、資料に基づき報告。

委員：

質問だが、資料2枚目の下に、「予算見込み（令和4年度以降）計230万円」と記載があり、その下には「令和3年度予算要求額130万円」とあるがどういうことか。

事務局：

団体育成型、団体間協働型については、令和3年度から予算付けして制度を開始する。

委員：

令和3年度は、団体育成型と団体協働型のみということか。

事務局：

そのとおり。公益活動団体協働提案負担金の団体提案型、行政提案型は来年度を準備期間とし、実際にお金が動くのは令和4年度からということになる。公益活動団体協働提案負担金は準備期間をじっくり取り、企画の段階から練り上げていくということになる。

委員：

わかりました。もう一つ、以前から言っていたことだが、補助金の使途について、事務経費については認められていないのか。他の例も調べて検討してほしいと何度もお願いしていたが。色々な公益活動を行っていく上でそこが重要。補助金なしで行うことはかなりきつい。そういうものがないので、NPO法人をやめようという団体も増えていくと思う。それをサポートすることも大切なのは。

事務局：

以前から人件費、事務費の部分を応援してもらいたいというのが団体の本音である

ことは聞いていた。どのような対応ができるのか考えてはいたが、申し訳ないが人件費の部分は対象経費から外している。ただ、高めの補助率で設定しているし、市と団体が一緒につくりあげていくので、上手く事務分担できるのではないかと考えている。おっしゃっていることは十分わかっているが、この制度にすべてを反映させているわけではないということをご了承いただきたい。

委員：

前と変わらず人件費部分は認めていないということか。

事務局：

全てには対応できない。ただ、市と団体が一緒につくりあげていく中で、事務を分担できる部分はあると思う。負担金を人件費に充てることは難しい。

委員：

事務を分担できるのは公益活動団体協働提案負担金の方だけか。公益活動支援補助金の事務部分は市からお手伝いはいただけないのか。

事務局：

公益活動支援補助金の方は、補助金を提供するということなので、基本的には今までと同じ考え方。公益活動団体協働提案負担金については、市と団体が一緒につくりあげていく制度設計。

委員：

公益活動団体協働提案負担金の方は人件費は出ないけれども、市がマンパワーを出してくれるようだが。

委員：

少し荒っぽいかもしれないが、みなさんはお金をもらって仕事でやっているが、私たちは仕事ではない。それがだめだと言っているわけではない。事務経費を対象経費と認めると、不正に使われる可能性があるということはある。協働でやるといっても、市は仕事でやるのだから当たり前のこと。一緒にやるから事務負担が緩和されるというのは少し違うのではないかと。私はこういう実験をやってみた。例年100万円、150万円の補助金をもらっていたが、昨年度は全く補助金をもらわなかった。補助金をもらおうと手続きが大変なので、1度休んでみたらものすごく楽だった。それでボランティアが集まらないかといったらものすごく集まった。根本的にずれていると思う。前と変わらず人件費がつかないということですね。

事務局：

基本的な制度は変わらない。

委員：

誰もがみんな思っていることだと思う。それが形にならない。それはなぜなのか。それについては不満。

事務局：

記録に残しておいてもらえればと思う。

委員：

団体提案型で今年すでにモデル事業として動いているが、来年度の予算はついているのか。

事務局：

来年度継続の予定はないので予算付けもしていない。継続するというのであれば、いずれかのコースを申請してもらおう対応を考えている。

事務局：

モデル事業を通して、課題等の検証をさせてもらった。それを制度に反映させた。その結果、酒田南高校の絵本が製本化されて、本屋の店頭にも並んでいる状況。市の施策にもうまく繋がっていけるよう応援していきたい。

4 その他

委員：

市職員、市社協職員等がボランティアに参加できる仕組みづくりが必要ではないか。ゼロではないが、市職員がボランティアに参加している姿が見えない。例えば、ボランティアに行った人数の統計を取ってみるなど。実体験が一番大事。酒田市民は公益活動に関心が高いし、行動力もあると思う。逆に市職員はボランティア活動に参加していないというところが全然変わっていない。ボランティア活動に参加できる仕組みづくりについて検討していただきたい。

また、市役所は2～3年で異動があり、担当職員との関係が切れてしまう。この補助金に関しては、まちづくり推進課が繋いでいくと書いてあるが。

事務局：

後段の部分について、人事異動は全くないわけではないが、まちづくり推進課が組織として、ボランティア・公益活動を支援していくことをミッションとして明確に捉えていることに変わりはない。

前段の部分については、市職員もボランティア活動に参加している。ボランティア活動に行ったという報告はなく、データもとっていないので数字としては見えない。ご自分の団体へ市職員のボランティアの数が少ないので、参加していないという認識をお持ちなのかなと思う。市職員が一市民としてボランティアに取り組む自主性を持ってもらうために、雰囲気、環境づくりが必要になると思う。まちづくり推進課でも検討していきたい。

5 閉会